# 数字でみるかわさきの20年区別にみる世帯

川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)が1999年に開館して今年20周年を迎えます。62号から、20周年記念行事 の一環として、かわさきの20年の変化を数字でみるシリーズを始めました。第2回は、「区別にみる世帯」です。「世帯数」 「一世帯当たりの人員数」「単独世帯割合」の3つから、ここ20年の変化を見てみましょう。

# 世帯数



#### 変化のポイント①

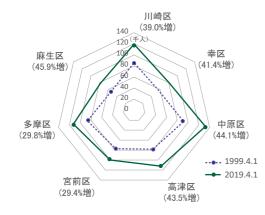
世帯数は全市、7区とも増加。 区別では、麻生区が45.9%と7区の中で1番の世帯数 の増加、反対に、宮前区は29.4%の増加に留まった。

# 53万世帯から 73万5千世帯

### 20万5千世帯増 /

※5,800万7,536世帯(+53万499世帯、+0.92%)(2018年1月1日全国) ※( )内は対前年増減数・率。

### 川崎市区別世帯数変化(1999~2019年)





# 世帯規模 (一世帯当たり人員) (2019年) ※一般世帯人員

2.38 mb 2.11

(2015年川崎市) ※ 2.82 (1995年全国) から 2.33 (2015年全国)

### 一般世帯の区別の平均一世帯当たり人員

	1995 年(人)		2015年(人)
川崎区	2.37	7	2.03
幸区	2.46	7	2.12
中原区	2.14	7	1.99
高津区	2.33	7	2.09
宮前区	2.62	7	2.35
多摩区	2.27	7	1.98
麻生区	2.65	7	2.32



#### 変化のポイント②

世帯規模(一世帯当たりの人員)は縮小。 区別の平均一世帯当たり人員をみると、全区 で減っていますが、サイズの縮小率が一番大 きいのは川崎区(▲14.3%)、反対に縮小率が 一番小さいのは中原区(▲7.0%)でした。 もっとも多いのは宮前区の 2.35 人で、もっと も少ないのは多摩区の 1.98 人です。

注:「その4世帯人員(10区分)別一般世帯数、一般世帯人員及び1世帯当たり人員 (間借り・下宿などの単身者及び会社などの独身寮の単身者一特掲)」より作成。

# 一般世帯に占める単独世帯割合(%)

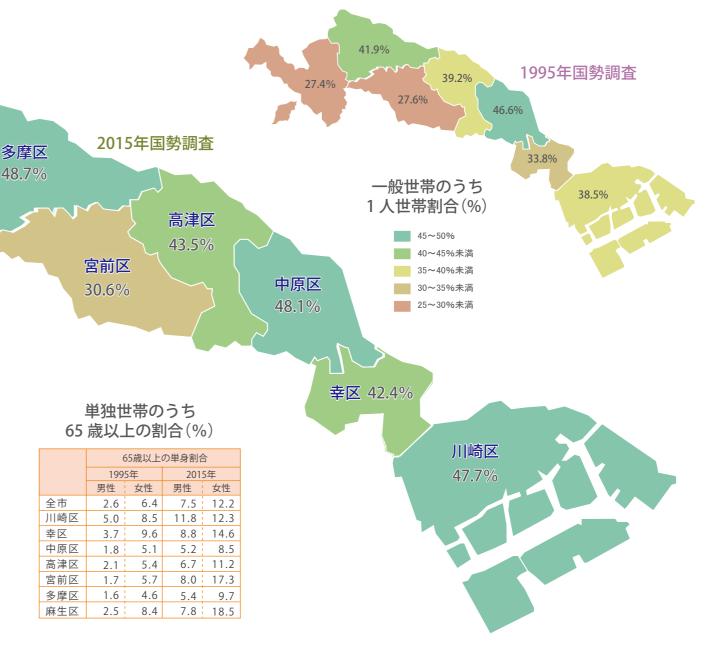
37.4% から 42.7%

(1995年川崎市)

(2015年川崎市) ※ 25.6 (1995年全国) から 34.5 (2015年全国)

### 変化のポイント③

単独世帯割合は、全市、7区とも高まり、全国と比べて、単独世帯割合が高いと言えます。 単独世帯に占める 65 歳以上割合は、男女ともに高まっています。区別でみると、麻生区は 18.5% で、宮前区は 17.3%、増加率について特に顕著なのは宮前区で、65 歳以上の女性単身世帯割合が 20 年間 で 3 倍になり、65 歳以上の男性単身世帯割合も 4.6 倍になりました。



#### 参考文献等

注:国勢調査では、「世帯数」を「一般世帯」と「施設等の世帯」の大きく2つに分けていますが、ここで言う「世帯数」とは「一般世帯」のことを指します。 平成27年国勢調査人口等基本集計結果 結果の概要 http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka/kihon1/pdf/gaiyou1.pdf (2019.4.23閲覧) 川崎市の世帯数・人口(平成31年4月1日現在) http://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000105864.html (2019.4.23閲覧)

川崎市の世帯数・人口(平成11年4月1日現在) http://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000015093.html (2019.4.23閲覧)

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数のポイント(平成30年1月1日現在)」 http://www.soumu.go.jp/main\_content/000495315.pdf (2019.4.23閲覧)

総務省「2005国勢調査 用語の解説(第1次基本集計)」 https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/kihon1/yougo.html (2019.4.23閲覧)